

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社 ケアインベーション		
事業所名	グループホーム ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徐々に、地域との交流がもてるようになり、天気の良い日は施設周辺を散歩したり、ドライブに出掛けています。自治会行事への参加や7月の子供みこしの時は、引き続き当施設が休憩場所として利用していただくなど積極的に参加し交流を図っています。また、ひなた日和の「理念」「職員像」を掲げ入居者が「生きがい」と「尊厳」のある、自己決定ができる自立した生活を職員は傾聴、需要、共感し高度な介護技術を活かして支援し入居者一人ひとりが居心地の良い環境の中で過ごしやすい施設でありたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、四季折々の風情を感じられる閑静な場所にある。周辺には学校や病院、住宅地があり、夏祭りの子供神輿等に当事業所を休憩場所として提供するなど、積極的に地域住民との交流を深めている。近隣の方に野菜をいただいたり、散歩時には挨拶をしたり、地域との一体感を感じられるよう努めている。また、利用者が生きがいと自己決定が出来るようにをモットーに職員一丸となって支援している。管理者は、職員が向上心を持って働けるよう、各種研修の実施等、就業環境整備に取り組み、職員同士でも常時ケアについて話し合いを行い、より良いサービスを提供できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホール間の掲示板に理念を掲げ実践につなげているよう努めている。	職員は、理念の共有、意識付けをするため、日々話し合いを行い、実践に努めている。新人職員には理念と職員像を説明し、日々のサービス提供場面において理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事への参加、散歩、外出することで地域住民の方との交流がもてるよう取り組んでいる。	自治会に入会し、地域との良好な関係構築に努めている。夏祭り等は事業所を休憩所に提供したり、野菜をいただいたり、募金に協力したりと、地域住民との積極的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の11月より2か月に1回開催し、事業報告の他、他業種の方の参加への呼びかけを行い、意見交換しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1度、自治会長、民生委員、家族代表、利用者、警察署員、市職員等の参加により開催している。時折消防署員にも参加してもらっている。会議では事業所からの支援状況報告の他、参加者から率直な意見や要望が出され、協議を重ねながらサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないこと、確認したいことがあるときは連絡を取り協力関係を築けるよう努めている。	市担当者には、運営推進会議時に事業所の現状や課題を把握してもらう他、制度上の情報提供や支援に関するアドバイスをもらう等、市と連携を密にしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関のカギは施錠せず、いつでも出入りが出来るよう、見守りしながら、拘束のないよう取り組んでいる。	管理者及び職員は身体拘束の内容と弊害を認識し、身体拘束や言葉による拘束のないケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠はせず、利用者の希望に添い、行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士、声掛けあい、話し合いをし虐待が見過ごされないよう、防止に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要性に応じて対応、支援が出来るよう取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご本人、ご家族様と一緒に、説明を行い、分からないこと、不安なことは再度わかりやすく説明を行い、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時、電話があった時などに日々の状況等伝え、いつでも、意見、要望を傾聴し運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時や利用料支払い時に要望や意見等を聞き、検討、協議しながらサービスに反映できるよう努め、日々の状況報告もしている。入居時には事業所の苦情受付担当者や外部の苦情受付機関があることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている情報交換会や、日々の会話等でも意見を聞き反映できるよう努めている。	月1度のカンファレンスにおいて、利用者の状況や実情を把握している職員の意見を代表者や管理者が十分に聴き、気づきやアイデアを運営に取り入れている。	内部研修はもとより、今後、外部研修に参加するなどし、事業所に持ち帰り参加職員の発表の場を設定する等、職員の更なる意欲の向上や質の確保にも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがい、向上心を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会に参加し職員のスキルアップに努め、また、働きながら職員同士ケアについて話し合い、互いにスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の会議や研修会等に参加し職員との交流を図っている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、在宅、施設へ訪問し、ご本人の困っていること、不安なこと、要望を聞き、安心してサービスを利用していただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の困っていること、要望、不安なことを聞き安心して利用していただけよう、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様に「グループホーム」の説明を行い、必要なサービスと一緒に検討し、他サービスの利用も含め担当ケアマネージャーとも相談しあい対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることはしていただき、出来ないことは、無理なく一緒に行うことで支えあう関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された際に、日々の状況を伝え、ともに、支えていけるよう関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問、場所への外出は継続してかわりをもてるよう支援に努めている。	家族の協力のもと、知人や商店、行きつけの場所等と関わりを持ち続けられるよう支援している。友人の来訪時には居室に招く等、これまで培ってきた関係を断ち切らないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席の配置や、スタッフが間に入ることで入居者同士がかかわりあえるよう努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて、相談、支援が行える関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、希望や、意向を傾聴し把握に努め、また、情報交換会などで、話し合い検討している。	日々の関わりの中で声かけし、言葉や表情から真意をおしはかり、職員間で情報を共有し、思いや意向の把握に努めている。意志疎通が困難な場合は家族等からの情報を得ながら本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご家族様、ご本人からの情報や、日々の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を配置し、現状の把握、心身の状態の変化、また、気づいたことなどは連絡ノートを使用し、情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人、必要な関係者との話し合い、意見、アイデアをもとに現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントやモニタリングを繰り返しながら、現状に即した介護計画を作成している。本人、家族の要望や状態の変化に応じて、概ね6ヶ月毎に見直しをしている。計画は家族にも報告して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に、経過記録を作り、日々の様子、ケアを記録し、職員間で情報を共有し日々のケアや介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に配慮し、その時のニーズに柔軟に迅速な対応、サービスが行えるよう努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は、施設周辺を散歩したり、ドライブをして外出の機会を増やし、心身の力を発揮でき、安全で豊かに楽しんでいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望がある場合はかかりつけの医療機関を受診していただいている。特にない場合は協力医である、中谷医院、施設往診のきねぶちクリニックにて支援している。	本人、家族の要望で、これまでのかかりつけ医を受診している。月1回、協力医療機関の往診があり、希望により受診している。受診結果に関する情報の共有にも努めている。歯科医の往診もあり、眼科等への受診同行は職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の小規模多機能型居宅介護の看護職員との連携をとり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを使用し、入居中の状況を伝え情報交換、相談に努めている。また、ご家族様と連絡、相談しあい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、ご本人と話し合う機会をもち重度化、終末期に対応できる体制を整えていきたい。	重度化した場合や終末期にむけた本人及び家族の意向を踏まえ、事業所に対応し得るケアについて考慮し、協力医等と対応方針の共有を図りながら体制を整備する方向である。	重度化した場合や終末期支援のあり方、事業所の対応について、段階ごとに家族、かかりつけ医等のケア関係者と意向を確認しながら、職員全体で話し合い支援に取り組んでいく事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ全体で年1回、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月には消防署立会いの下、総合避難訓練を行い、10月には、夜間想定避難訓練を行っている。地域の方にも参加していただいている。	消防署立ち会いのもと、総合避難訓練や夜間想定訓練を地域住民参加で行っている。職員連絡網に自治会長名簿も組み入れ、緊急時には近隣住民に発信できる体制が整っている。備蓄もあり、今後もより充実させていく意向である。	

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつでも、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを傷つけないよう言葉かけには十分に注意し対応している。	利用者の写真を使用する際には家族に了解を得るなど、利用者一人ひとりのプライバシー確保を徹底し、尊厳と権利を守りながら支援体制を整えている。声かけの際は言葉のトーンに十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも、思い、希望が言えるような環境づくりや、声掛けに気を付け自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その時に、要望希望、また、不安なことを傾聴し、その人らしく、安心して過ごせるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴準備のときはできるだけ一緒に準備し、着たいもの、季節に合ったその人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、調理の準備、盛り付け、配膳、後片付けと、無理なく一緒に行えるように支援している。	食材の調達、献立の検討や調理は職員が行っている。利用者も買い出しや準備に参加することもあり、職員の見守りのもと、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し、食事量の確認や、献立ノートを使用し、偏りのない食事を提供できるように気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを促し、必要に応じて、その都度一緒に行い口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを確認し、表情や体動の変化に注意し、自立への支援に努めている。	排泄チェック表を使用し、可能な限りトイレ排泄を促すよう声かけしている。利用者はそれぞれリハビリパンツ、パット、綿パンツを使用しているが、排泄失敗時には本人のプライドや羞恥心に配慮し、人目にふれないようさりげない対応で自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、水分補給をこまめに促したり、日中の活動量を増やすなど予防に努めている。また、ご家族様と相談し、乳製品や、ジュース等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度の入浴を提供しているが、希望があったときや、体調に合わせて、入浴できるよう対応している。	入浴は3日に1度、時間帯は14時から16時としているが、利用者の希望に合わせて対応している。1対1で会話をしながら入浴支援しているが、入浴拒否者には職員2名で対応している。季節に応じて入浴剤も使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、体調の状況に応じて、休息できるよう支援しています。また、就寝時は個々のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方箋を確認し、きちんと理解、把握し、チェック表を作成し内服に努めている。また、内服薬の変更等には、連絡ノートを使用し確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来ることをみつけ、日々の生活の中で役割や趣味が発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散歩や、ドライブを支援している。また、ご本人の希望に添えるよう努めている。	ホーム周辺の散歩やドライブ等、季節に応じて利用者の希望に添った外出支援をしている。去年は家族も一緒に外出を楽しむ事も出来た。外出支援を行うことで、事業所に対する地域住民の理解、啓発活動にもつなげている。	

グループホームひなた日和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、ご家族様へ説明、了解を得ておこづかいをお預かりし、希望や必要に応じて使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、不快な思いのないよう、環境整備に努め、日中、夜間での明かりに配慮し、季節に沿って、飾り物を一緒に作成したり、生活感、季節感を大切に居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	共用空間は天窓が設けられ、明るく和みのある量のスペースがある。季節感を活かした飾り付けもされ、居心地良い空間が作られている。温度や湿度、換気も適切に管理されており、不快な臭い等もなく快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者が気軽に座れたり、横になったり多目的に使用できる畳や、数人で座れるソファがあり思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れたもの、馴染みのあるものを持ってきていただき居心地良く過ごせるよう努めている。	ベット、筆筒等は備え付けであるが布団、寝具は持ち込みで、利用者の作品や塗り絵等が飾られ、環境のギャップを感じさせない工夫がされた居室となっている。居室入口の表札はわかりやすく表示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸が居室の戸と似ているため「トイレ」の張り紙をし迷わずに行けるようにしている。また、安全に生活ができるよう環境整備に努めている。		